

シクラメンにおける焼け症状

シクラメンの葉や花卉の縁が焼けたように変色する症状は、根の吸収容量が少なく、葉や、時には花からの強い水分要求からくる生理障害が原因かもしれません。

この**強い水分要求**は、しばしば日照量または温度の急な上昇の結果です。同時に、**根が弱かったり**、あるいは鉢全体に張れていなければ、株に十分な水分を送ることができません。

したがって、水分を最も必要としている株の一番若い組織がこのような焼けのダメージを最も被ってしまう部分となります。

この現象は、栽培後期、**開花直前もしくは開花中**に起こりやすいです。

予防するには？

- 品種の旺盛さ、それに合った鉢サイズやADT(Average Daily Temperature - 平均日中気温)によって開花時期の**計画を立てましょう**。さらなる詳細は「**栽培技術情報**」をご覧ください。
- 健康で正常に機能する根の数を増やし、鉢内に張り巡らせるように、栽培初期の**発根期間**をきちんと設けましょう。
- ADTによって**最大光度**を調節しましょう。秋の気温の急な変化が誤ったかん水を招くこともあり、その結果、多くの根を失ってしまうこともあります。
- 株が急激に生長しないように、定期的で理にかなった(窒素肥料は少なめの)施肥を行いましょう。**アンモニア態窒素や尿素窒素の使用は避けてください**。
- 肥料バランスは $N:K_2O = 1:2$ または $1:3$ を保ち、**カルシウム摂取**は50-100 mg/Lと十分に与えてください。
- かん水方法(ドリッピングシステムや底面かん水システム)に**合った培養土**を使用してください。毛細根を保護するため、十分な緩衝効果が必要です。
- **素焼き鉢**での栽培の場合、水分不足による過度なストレスにはご注意ください。ストレスによる根数の減少が、プラスチック鉢よりも顕著に現れます。
- 暑い気候では、**光を十分に遮断**しない鉢の使用は避けてください。このような鉢が光を通してしまうことによって、毛細根の数が著しく減ってしまいます。
- 蒸散が必要最小限で済むように、日照時間の短い期間は**相対湿度**が80-85%を超えないようにしましょう。



焼けたように変色している花卉



焼けたように変色している葉と花卉